研究課題：医療機関がん診療機能の客観的・第三者評価標準システムに関する開発研究
課題番号：H18-がん臨床-一般-018
主任研究者：財団法人日本医療機能評価機構　理事長
坪井　栄孝

１．本年度の研究成果

がん診療に関わる医療機能の均てん化は重要政策課題であり、その推進のためには、がん診療機能の評価システムの確立が必須である。昨年度までの研究において、我々は、全国レベルで診療の体制やプロセスの多施設実態調査を行い、その結果を参考にがん診療評価項目体系を作成した。本年度は、昨年度構築した評価体系を基に、(1) がん診療評価項目の策定を進めると共に、(2) がん診療施設数施設において実地調査を行った。

（１）　がん診療機能評価項目の策定：

昨年度作成したがん診療機能評価体系を評価項目の形に落とし込む作業を進めた。項目作成に際しては、多職種にわたるがん臨床専門家から広く意見を求め、わが国のがん臨床の現状を反映した、より実効性の高い評価項目とすべく検討を進めた。

（２）　現地調査：

上記の評価項目の作りこみ作業と平行して、開発したがん診療機能評価項目を用いて、がん診療施設を 6 施設（都道府県がん診療連携地域拠点病院 2 施設、特定機能病院・地域がん診療連携拠点病院 1 施設、一般急性期病院 3 病院）において実地調査を行った。評価を受けた施設からも、評価項目に対する改善点等の指摘を受け項目に修正を施した。訪問先施設の選定に際しては、それぞれのがん診療施設の地域における役割（近隣病院等との連携・役割分担の状況等）などを考慮した。

２．前年までの研究成果

昨年度までの研究では、(1) がん診療機能評価体系案の構築、および、(2) 診療機能別に見たがん診療機能の実態調査の解析、を行った。

（１）がん診療機能評価体系の構築：

がん診療機能評価体系の構築のために、がん診療に関わる各種専門家から構成される研究チームを結成した。その中から、がん診療評価の際に、特に重点的に評価する必要があると考えた部門を同定し、これらの部門（病理診断、化学療法、放射線治療、緩和ケア、薬剤部）の専門家にヒアリングを実施して、質の高いがん診療を提供するために各部門が満たすべき要件および基準を策定した。この過程で、各領域におけるわが国のがん診療に関連した問題点が明らかとなり、さらには各領域においてがん診療の質を担保するために必要な人員配置と、求められる専門的知識・能力が同定され、より客観的な評価項目体系を策定することが出来た。

（２）診療機能別に見た、がん診療機能実態調査の解析：

平成 17 年度実施した「がん診療機能の実態調査」のデータを再解析し、がん診療機能に

関わる 3 つの構成要素（1．診療組織・体制、2．診療プロセス、3．数量的な実績指標）の指標を、① 都道府県がん診療連携拠点病院・②地域がん診療連携拠点病院・③ その他の病院の 3 群間で比較検討した。また全国を①北海道・東北、②関東、③甲信越・北陸・東海、④近畿、⑤中国・四国、⑥九州・沖縄に層別化し、回答の分布を比較した。結果、診療実態の地域性が示されるとともに、がん診療連携拠点病院はその他の病院と比較して、比較的人員等に恵まれているものの、地域のがん診療において中核的な役割を果たすには、さらなる人材の確保が必要であることが示唆された。

３．研究成果の意義及び今後の発展性

現在、がん診療連携拠点病院が全国に設置され、がん診療機能の平準化が図られているところである。しかし現時点ではその指定要件には第三者的な評価は含まれておらず、がん診療の質に関して指定された施設を同列に論じることが難しい。がん診療機能評価は一般的な病院機能評価と同様に、一律な数値比較からはその質の評価を行う事は困難であり、対象施設が存する地域において期待される役割・機能等を勘案して初めて適切な評価が可能である。本研究においては、これらのがん診療機能評価の特質を充分に考慮した、実効性の高いがん診療機能の第三者的評価を目指しており、将来的にはがん診療連携拠点病院の指定要件の一つとしても活用可能な評価方法の開発を目指している。

また、わが国においては、がん医療は前述のがん診療連携拠点病院のみでなく、大学付属病院を中心とした特定機能病院から地域の小規模病院までを含む多くの施設で提供されているのが現状である。それら多種多様な施設において提供されるがん診療の質を、ある一定の第三者的視点から評価しその結果を社会に示すことを通じて、がん診療の質の向上を図り、患者・家族のがん診療施設施設選択の際に有用な情報を提供し、さらには、国民のがん医療への信頼向上を目指す。

４．　倫理面への配慮

人、動物およびゲノムを研究対象としないため、特に倫理問題は発生しにくい。医療機関からデータを収集する際には、個別症例のデータではないデータや症例群の集計値を扱うことを原則とする。個別症例データを扱う場合、あるいはその他の疑義が生じた場合は、疫学研究に関する諸倫理方針や法制度を遵守し、倫理審査を経て適切妥当な対応を行う。

５．発表論文　なし

６．研究組織

①研究者氏名	②分担する研究項目	③最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属施設及び現在の専門（研究実施場所）	⑤所属施設における職名
坪井 栄孝	研究総括	日本医科大学・S27 年卒・医学博士・放射線医学	財団法人日本医療機能評価機構 病院管理学	理事長
河北　博文	がん臨床機能評価システムの研究	慶応大学医学部 S52 卒・医学博士、シカゴ大学・MBA・医療経営・政策	財団法人日本医療機能評価機構 病院経営学	専務理事 代行
高上　洋一	がん診療の臨床面の評価	徳島大学医学部・S53 年卒・医学博士・小児科	国立がんセンター 中央病院薬物療法	薬物療法部 部長
今中 雄一	情報分析、立案	東京大Ｓ61 卒．医博；MPH、PhD(ﾐｼｶﾞﾝ大) 医療管理･政策	財団法人日本医療機能評価機構 医療の質評価 医療経済	研究開発 担当理事